

「話下手」が「面白い人」になる方法

著者：かりりい（小野田）

はじめに、紛れもない現実をお伝えします。

面白い話ができる人は、人生得しまくる

これはもう、紛れもない現実。

「そんなの言われなくても分かってるよ！」
という声が出てくるほど、揺るぎない事実だと思います。

仕事は上手くいくだろうし、
恋愛も上手くいくだろうし、
友達関係も上手くいくだろうし、

このスキルがあるだけで、
かな〜り生きやすくなります。

もちろん、
このスキルだけあればいい！と言いたいわけじゃなく、
他にも大事なことは沢山あります。

でも、本当の意味で「面白い話」ができる人は、
他のスキルも自然と上がっていることが多いんですね。
（この原理については後ほど）

だから、「面白い話」ができるかどうかは、
ヒジョーーーーーに重要っ！

と、こんなことを言うと必ず、

「自分にはセンスないからな〜。。。」

という人が出てきます。

が！

面白い話ができるかどうかって、
実はセンス関係ありません。

いや、もしかしたら多少はあるかもしれませんが、
ここは無いという事にしておきましょう。笑

「センスが絶対条件です」
なんて言われたら、絶望しかないので。苦笑

少なくとも僕は、
面白い話ができるかどうかは、
育めるとしています。

もちろんセンスある人もいるとは思いますが、
センスが無くても面白い話ができるようになります。

その理由も、読み進めてもらえれば分かるはず。

それでは本編どうぞ！

【目次】

- ◆第1章～そもそも「面白い」とは？～
- ◆第2章～本当の意味で「面白い話」とは？～
- ◆第3章～「面白い話」をするために～

第1章～そもそも「面白い」とは？～

人は、どんな時に「面白い！」とを感じるのか？

これを理解しておかなければ、
そもそも面白い話がどんなものかも分かりません。

なので、
じれったいかもしれませんが、
まずはここから考えていきましょう！

誤解されがちなのは、

面白い＝笑える

これよく誤解されていますが、
実は違うんですね。

「面白い」というのは、もっと幅広いのです。

たとえば、
ジブリの『千と千尋の神隠し』を観終わったあと、
「面白かったな～♪」って思いますよね。

このときの「面白い」は、
しゃべくり777を見たときの「面白い」とは感覚が違います。

ジェットコースターに乗ったときの「面白い」とも感覚違いますよね。

そのくらい、「面白い」って言葉は、ふわふわしてるんです。

じゃあ、面白いって何なの？

この感覚を言葉にするのは難しいのですが、
感覚として最も近いのは・・・

面白い＝刺激

予想外の展開、新しい発見、新しい知識、新しい考え方、
今まで考えもしなかった視点、予想から外れたリズム感・言葉の選び方、

そういう刺激を受けたとき、
人は「面白い！」と感じるんです。

面白い人というのは、刺激を与えられる人

これを踏まえて、次いてみましょう！

第2章～本当の意味で「面白い話」とは～

ここ最近食べた料理の中で、
「美味しい！」と感じたものを思い浮かべてみてください。

お母さんの手料理でも、レストランでのサーロインステーキでも、
商店街で試食した（させられた）新作のソーセージでも何でも OK です。

スクロールする前に、
なにか1つ思い浮かべてみてくださいね。

．．．．．思い浮かべましたか？

さてさて、すごく言いづらいのですが、
思い浮かべてもらった意味は特にはないです。苦笑

なにも思い浮かべなくても問題ありませんし、
多分、そんなに真剣に「なんだっけな～」と5分も10分も考える人は
いないと思います。

（いたらゴメンナサイ。でも、その努力は脳のトレーニングになったよ！）

僕が言いたかったのは、
**あなたが「美味しい」と思って食べた料理でも、
なんとも思わない、むしろ「美味しくない」と感じる人がいるんだよ。**

ということ。

なに当たり前のこと言ってるんだ！

と怒られちゃうかもしれませんが、
当たり前だからこそ忘れがちなこと。

それに、料理を食べて「美味しい」と感じる気持ちは、
人がなにかに触れて「面白い」と感じる気持ちと同じなんです。

僕のクライアントに、ほとんど1人で飲食店を
やりくりしている方がいます。

（週末だけ1人アルバイトに手伝ってもらってるんだとか）

15 人くらいしか入れない、
席はほぼ全てカウンター席の小さなお店です。

そんな小さなお店のコンセプトは、
【お客さんにとっての”美味しい料理”を出す】

そのお店には、メニューがほとんどありません。

お客さんと話をする中で、
その人の好み（味付けの濃さ等）や好き嫌い、
今の気分を聞き、料理を作るそうです。

それこそが「美味しい料理」だというのが、
彼の考えです。

だから、1人でやってるんだと。

**素材から調味料の量までガチガチに決められたレシピで作った
万人受けする料理を出すのではなく、
その人に合わせてレシピを変えながら作った料理を出す。**

これが、そのお店のコンセプトだそうです。

僕は、この感覚は料理に限ったことではないと思うんです。

「美味しい」と感じる感覚が人によって違うように、
「面白い」と感じる感覚も人によって違うんですね。

個人の好みがあるわけです。

この感覚をしっかりと理解して使い分けられているかどうか、面白い話ができるかどうかを分けているんです。

ここまでの流れから、
「つまらない話」と「面白い話」の違いを分かりやすくいうと、

つまらない話＝相手が興味ない話
面白い話　＝相手が興味ある話

びっくりするくらいシンプルですよ。笑
とくに目新しい発想でも何でもありません。

が！

ものすーーーーっごく重要な意識ですよ。

マンガが好きな人に「面白いマンガがあってさ～」と話したら、
きっと「なにになに教えて！」と興味を持ってくれます。

でも、「わしはシェイクスピアしか読まんぞ」という白ひげの頑固爺ちゃんに、
「面白いマンガがあってさ～」と話しても、
「**やかましい小僧！**」と、杖で蹴散らされるでしょう。

結構、難しく考えられがちですが、
面白い話とつまらない話の違いは、こんなにシンプルなんです。

この基本が抑えられていれば、
お笑い芸人みたいに上手な話し方ができなくても、
「相手にとって面白い話」はできるんですね。

第3章～「面白い話」をするために～

さて、
本当に面白い話は何かが分かったところで、
具体的に何をすればいいのかをご紹介します。

やることは簡単です。
今すぐ始められます。

面白い話をする手っ取り早い方法は、

「モノ知り」になること

言い方を換えれば、
話の引き出しを増やすことです。

とは言っても、
難しい勉強をするわけじゃなくて、
「とにかくいろんなことを知る」こと。

たとえば自分は全然洋楽に興味なかったとしても、
知り合いに洋楽好きな人がいたとしたら、
その人に「どのアーティストがオススメ？」と聞いてみたり。

Youtube で再生回数が多い曲を聴いてみたり。

そんなラフな感じでいいんです。

深く知らなくても、かじっとくだけで OK。
「にわか」でいいんです。笑

詳しいことは、相手に聞けばいい。

その方が相手も気持ち良く話せるし、
自分にとっても話の引き出しが増えてプラスです。

ダブルでハッピー。

だから、

あらゆる分野の「にわか」になる

これが面白い話ができるようになるための第一歩。

浅くていいんです。

もちろん、浅い知識しかないのに
すべて知ったようなつもりになって気を大きくするのは
間違いなく「イタイ人」になってしまいますが、
自分で「にわか」なことを認識していれば問題ないです。

**面白い話ができない人に共通するのは、
知識に偏りがあることです。**

自分が興味あることしか見向きもしていないんですね。

だから、話の幅が狭くなり、
特定の人しか楽しませることができなくなるんです。

自分の守備範囲が狭くなるわけですね。

たとえ浅い知識だろうと、
知っているのと知らないのとでは、どえらい違いです。

0と1の間には、びっくりするくらい大きな差があるんです。

小さな1をいっぱい増やしていきましょう。

今まで興味レベル0だったことにも、
興味レベル1くらいまで何とか自分を向かせていきましょう。

「質問する力」だとかそういうのも大事だと思いますが、
まずはココからです。

なんにも知らなかったら、なんにも話せませんから。

いろんな所、かじっていきましょう。笑

僕の実家で飼っている真っ黒なトイプードルは、
まだ片手で掴めちゃうほど小さかった頃、
食べ物とか関係なく何でもかんでもかじっていました。

あの精神は、意外と見習うところアリです。

かじって、モノ知って、にわかになる

これでいきましょう！笑

では、ありがとうございました(^^)